

日本都市計画学会関西支部 令和3年度 学生限定ワークショップ

岸和田・木材コンビナートの将来ビジョンを考える ～1日目～

日本都市計画学会関西支部では、将来のまちづくりや都市計画を担う人材育成に貢献するため、学生を対象とした各種の活動を行っています。

これまで、令和元年「20年後の新大阪のコンセプトを作ろう」、令和2年「堺旧港周辺のまちづくりを考える」と題して関西の存在するエリアを対象に、複数の大学の学生から構成されるグループで都市計画・まちづくりの提案を考えていただくワークショップを開催してきました。

このたび、令和3年度学生限定ワークショップ「岸和田・木材コンビナートの将来ビジョンを考える」1日目の課題発表を行いましたので、報告いたします。

■開催概要

主 催：(公社) 日本都市計画学会関西支部

後 援：岸和田市、忠岡町

日 時：令和3年10月13日(水) 18:30～20:30

場 所：オンライン

参加者：学生(28名)

内 容：

◇ご挨拶 忠岡町役場 産業まちづくり部部长 村田 健次氏

◇ご講演 「岸和田市の臨海部の現状 ～木材コンビナートを中心に～」
岸和田市役所 魅力創造部 産業政策課課長 上東 東氏

◇参考事例紹介

「大阪港における貯木場の埋立」 企画委員 矢野

「将来の大規模インフラ整備」 企画委員 西江

◇課題発表

◇ディスカッション

■ご挨拶

忠岡町産業まちづくり部部长 村田 健次氏よりご挨拶をいただきました。



- ・取り組みを通して、木材コンビナートだけにとどまらず、岸和田市、忠岡町に愛着をも
っていただき、活力あふれる提案をいただきたい。
- ・次回実施される現地まちあるきと同日、新浜緑地において、忠岡新浜緑地活用社会実験
を行っている。キッチンカーや釣りイベントなどのアクティビティを実施し、既存緑地
ストックの利活用のニーズを知ろうという取り組み。
- ・今回のように新しいまちづくりを検討するにあたって、既存ストックのポテンシャルや
利用形態を踏まえて考えることも重要な観点になると思う。まちあるきの一環として
お立ち寄りいただければ、より地域性や施設のポテンシャルを体感いただけると思う。

■岸和田市の臨海部の現状～木材コンビナートを中心に～

岸和田市魅力創造部産業政策課課長 上東 東氏よりご挨拶と岸和田市臨海部についてご紹介いただきました。



◇岸和田市のプロフィール

- ・岸和田だんじり祭りが有名。岸和田城があり、歴史と文化のある街。
- ・関空まで約20 km、世界に一番近い城下町というキャッチフレーズでPRしている。
- ・歴史と文化だけでなく、食べ物がおいしい。海産物（しらす、和泉だこ、金太郎イワシ）、大阪の水揚げの8割以上が岸和田で揚がっている。豊かな海に恵まれている。
- ・農産物についても、泉州ブランドの玉ねぎ、包近の桃、ニンジン「彩誉」、泉州の水なすなど、海から山まで食べ物が豊富。

- ・市域面積は72.72km²、人口190,796人。
- ・忠岡町は面積3.97km²で日本一小さい町。

◇岸和田市の臨海部

- ・距離で見ると臨海部の半分くらいが今回の対象となる木材港地区
- ・旧港地区（現・岸和田カンカン）は1791年開港で神戸港よりも古い港。
- ・旧港地区を除いて、元々は全部砂浜だったところを埋め立てた。

◇木材コンビナートについて

- ・岸和田と忠岡にまたがる臨海部に位置する131haの埋め立て地、「東洋一の木材工業集積地」を目指して昭和41年に完成
- ・所狭しと南洋材の丸太が浮かべられていたが、現在は水面の大半がほぼ未使用の遊休水面となっている。
 - ・アクセスは大阪まで40km車で30分、関空まで15分。最寄り駅は忠岡駅・春木駅、徒歩30分。
- ・土地利用の状況は工業地としての利用が主。下水処理場や臨海線沿いに一部商業がある。
- ・用途地域は全域工業系。工業専用+準工となっている。
- ・臨港地区の指定がされており、分区は主に工業港区、一部商港区。港湾管理者は大阪府。
- ・ここを埋め立てて実際に建物が立地するには早くても20年かかる。
- ・長い時間をかけて将来の街の姿を思い描きながら土地利用を決めていくには、まずは埋め立て免許をとったり港湾計画を変更したりと計画しなければならない、今はそれらの始まりの初めに着手している。

■「大阪港における貯木場の埋立 事例紹介」

矢野委員より、参考事例として「埋立事業」と「発生土再生活用事業」の共同化事例を紹介しました。

- ・住之江区にある第6貯木場。輸入木材の製材化に伴い、水面保管ではなく陸上保管場所が必要になってきた。
- ・平成8年に埋立免許を取得し、購入土砂や建設残土による埋立てを開始。平成11年に第1工区が竣功したものの、第2工区は財政状況の悪化、地価下落により中断した。
- ・一方、阪神高速大和川線（令和2年3月開通）は、全長9.4kmうち3.9kmがシールドマシンによる掘削で実施されたが、シールド工事により発生する建設汚泥の処理が課題となっており、汚泥のリサイクルを検討委員会にて検討していた。

- ・第6貯木場の第2工区の事業性については、従来スキームで事業を継続しても70億円の赤字、事業中止しても71億円の赤字ということから、新たなスキームで収支改善を行う検討が必要となった。
- ・事業収支の改善スキームとして、大和川線建設工事の建設汚泥を適正に処理して活用し、地盤改良や埋立てを阪神高速道路(株)が実施すること、土地の区画割の見直しによる売却地増、さらには環境面での効果などを考慮し、検討の結果、阪神高速道路(株)の「再生活用事業」と大阪市の「埋立事業」を共同化することで事業を再開することとなった。
- ・平成21年度に第2工区の事業が再開、平成28年に土砂受け入れ完了し、平成29年完成。現在は道路やインフラの整備中で、これから土地売却に入るところ。
- ・「埋立事業」と道路事業から発生する汚泥の「再生活用事業」を共同事業化することで、Win-Winな関係になるという事例の紹介。岸和田木材コンビナートについても、コストをかけずに埋立てを行う工夫が必要と思われる。

■「将来の大規模インフラ整備 事例紹介」

西江委員より、参考事例として今後想定される大深度地下利用による大規模インフラ整備計画を紹介しました。

- ・北陸新幹線の金沢－敦賀間が2023年度末を目指して進められている。
- ・敦賀より西側については小浜を通るルートが決定しており、環境アセスメント実施中。敦賀－新大阪間は2023年度からの着工をめざしており、仮に工事に15年かかると考えると2038年に完成することになる。
- ・リニア新幹線については2027年に東京－名古屋間の開業を目指して進められている。その後順調に名古屋－大阪間が着工すれば、2038年に開通することが見込まれる。(当初JR東海の発表は2045年)
- ・大阪都市再生環状道路 淀川左岸線延伸部、2023年度から本格着手となる。
- ・いずれの事業も大部分が大深度地下を利用し、施工にあたって発生した掘削土をどこに捨てるのかという問題が必ず発生する状況。

■課題発表

本ワークショップの課題と班分けの発表を行いました。

◇課題

木材コンビナートの歴史や岸和田の臨海部の現状等を踏まえ、木材コンビナートの貯木場(埋め立て後)及びその周辺の区域について、ふさわしい土地利用について提案。提案の対象年次は概ね10～20年後

◇提案を求める内容

- ①土地利用に関するコンセプト
- ②導入する機能・土地利用のゾーニング
- ③土地利用計画(道路の配置など含む)
- ④将来イメージ (パース)

◇審査の視点

- ①新規性
- ②地域性
- ③都市計画との整合
- ④実現性
- ⑤プレゼンテーション

◇班分け

28名の学生が6つの班に分かれました。(4～5名/班)

■ディスカッション

課題発表及び班分けの発表後、各班に分かれてディスカッションを行いました。

■今後の予定

2日目：11月20日(土) 現地調査

最終日：12月18日(土) 発表・審査

※2日目・最終日の記録については追って報告いたします。

以上

日本都市計画学会関西支部 令和3年度 学生限定ワークショップ

岸和田・木材コンビナートの将来ビジョンを考える ～2日目～

■開催概要

日 時：令和3年11月20日（土）14：00～17：00

場 所：岸和田市木材町17-2 ホクシン株式会社様事務所 ほか

参加者：学生（25名）

内 容：

- ◇ご挨拶 一般社団法人大阪木材コンビナート協会 会長 村上 顕 様
- ◇ご講演 「木材コンビナートのこれまでとこれから」
一般社団法人大阪木材コンビナート協会 事務局 内藤 清二 様
- ◇現地調査

■ご挨拶（一般社団法人大阪木材コンビナート協会
会長 村上 顕 様）

- ・今回ワークショップの対象地となっている木材コンビナートは、今後どのように変えていくか、発展させていくか日頃から考えているが、なかなかアイデアが出てこない。
- ・みなさんの若い頭で斬新なアイデアを出していただき、将来の参考資料にしていきたい。夢物語でも良いので、遠慮なく意見を出してもらうことを期待している。



■「木材コンビナートのこれまでとこれから」
（一般社団法人大阪木材コンビナート協会
事務局 内藤 清二 様）

- ・私と半世紀の年の差のある若い方と、木材コンビナートのこれからを話し合えることに幸せを感じている。
- ・前回の東京オリンピックが開催された昭和39年に木材コンビナート建設は始まった。木材需要が旺盛になり、大阪港の貯留地だけでは限界に達したことや、台風などが来ると一般の流域に流れ込んでいってしまうといった防災面での問題を抱えていたこともあり、岸和田市と忠岡町にまたがるこの土地を大阪府が200ha埋め立て、昭和41年に完工。



- ・当時は高度経済成長期で合板需要が旺盛で、貯木場にはびっしり木材が浮かぶ光景が広がっており、東洋一の集積所を目指していた。ホクシン含め、5社の合板工場が昼夜稼働していたが、木材需要が衰退。合板業界は人をかなり使うことや、輸出規制によるマレーシアから輸入していた木材の原料高などで見合わなくなってきた。
- ・貯木場は76haあり、USJより広い（学生の情報によると4個分とのこと）。
- ・当初は木材業界を中心としたコンビナートであったが、木材産業の衰退とともに色々な業種の企業が入ってきて、複合団地になってきている。
- ・貯木場の利活用と不法投棄が問題となっている。木材コンビナート協会としても不法投棄防止のため日々巡回や監視（カメラの設置）を行っている。ホクシン横のあたりと忠岡町の岸壁に不法投棄の車が山積みされていた時代もあった。以前よりは少なくなっているが、もぐら叩きの状態。
- ・ウィークデイは仕事の車が溢れ、駐車場の確保が問題となる。われわれが目指す、安全・安心のまちづくりには至っていない。
- ・「スピード感」「タイミング」「バランス」の3つの要素をふまえて、まちづくりの将来のあり方を考えていってほしい。

【質疑】

- ・木材コンビナートに立地している企業がかかえている課題はあるか？
→昔の建築のため建ぺい率が100%に近い企業がたくさんある。土地を広げないと建て替え等ができないため、埋め立てた際には敷地に面している貯木場の一部を優先的に購入したいという企業もある。合板で栄えていた時代は、敷地から20mぐらいまでは企業の使用区域が認められていた。
- ・貯木場の水面利用は、現在行われていないのか？
→現在は100%使われていない。
- ・周辺地域との関わりは？
→鉄工団地と岸和田工業センターがあり、意見交換を行おうとしている。岸和田市・忠岡町とも密接な関わりを持っている。また、加盟企業の協力により子供たちの工場見学の受け入れを年間3~4校、5~6月に受け入れている。自分のまちにどのような企業があるのかを見てもらい、将来はこれらの企業で働いてもらいたい。コロナで実施が難しくなっているが、1校でも2校でも増やせたらと考えている。
- ・高速の入口・出口があるが、車の出入りの状況は？
→以前は泉大津での乗降が多かったが、高速料金の設定変更により一気に増え、交通も課

題になってきている。

■現地調査



貯木場をのぞむ

- ・埋立の話は過去にも数度あり、東岸和田の商業団地の移転が計画されたこともあったが費用がネックとなっている。もう埋立は無理かと思っていたが、今回は北陸新幹線やリニアの整備による残土を利用できる。新しい木材コンビナートの町を作る最後のチャンスかもしれない。費用に見あう魅力的なまちづくりの提案を行ってほしい。
- ・貯木場には係留のブイが 400 本近くたっている。ここに原木をつなげて海面が見えない状況だった。貯木場は水深 2m だが、このブイは海底十数メートルまで 3 本の杭に分かれて入っており、撤去は容易ではないため、水面のまま利用する際も検討の条件に入れること。
- ・北水門と南水門のみで外海と繋がっている。水面とかなり近く、夕日が綺麗に見える。陸域は工場がぎっしり建っている。海や木材の匂い、空気、温度を感じてもらえれば。

【忠岡町の社会実験】

- ・大阪府の下水処理施設の緑地。グラウンドや芝生の広場が広がっており、海辺までと岸和田市の埋立部分の果てまで緑道が続いている
- ・野球等の大会以外で普段利用者がおらず、野球等の大会の時にしか利用されていないので、キッチンカーの出店やバンドの演奏などを企画し、どれだけ人が来るのか社会実験している。埋立地の既存ストックとして参考にいただければ。





最後に記念撮影

都市計画学会 ワークショップ「岸和田・木材コンビナートの将来ビジョンを考える」 3日目

■開催概要

1. 日時

2021年12月18日（土）14時～17時30分

2. 場所

大阪市立大学文化交流センター 大ホール（大阪駅前第2ビル6階）

3. 参加者

学生（26名）

■内容

3日目となる今回のワークショップは、岸和市長 産業政策課長の上東様をゲスト審査員に、また前回、現地調査でお世話になった、大阪木材コンビナート協会の内藤様をゲストに迎え、各班が準備した課題発表用のパワーポイントを用いて、規定時間10分以内に発表し、会場からの質問に答えるというプレゼンテーションに挑みました。

どの班の内容も素晴らしく、発表にも力が入り、活発なプレゼンテーションとなりました。また、ゲストの内藤様をはじめ会場からの質問やコメントなどをいただき、終始、和やかな雰囲気でした。

審査は、(a)新規性、(b)地域性、(c)都市計画との整合、(d)実現性、(e)プレゼンテーションの5つの項目について、あらかじめ定めた「評価の視点」に沿って行い、厳正な審査の結果、2班が最優秀賞、4班と6班が優秀賞に選ばれました。受賞された皆様には、後日、事務局から賞状をお贈りしました。

参加された皆様、大変お疲れさまでした。また、お世話になりました岸和田市・忠岡町・木材コンビナート協会の皆様に心より感謝申し上げます。



■審査員（順不同、敬称略）

吉田長裕：大阪市立大学 大学院 工学研究科 准教授（企画委員会委員長）

麻生美希：同志社女子大学 生活科学部 人間生活学科 准教授（企画委員）

笹井 浩：総合調査設計株式会社 代表取締役社長（企画委員）

上東 東：岸和田市 魅力創造部 産業政策課 課長（ゲスト審査員）

■最優秀賞（2班）の発表について（講評）

- ・高度経済成長期に外材を輸入して栄えた木材コンビナートを国産材の発信基地として生まれ変わらせる提案は、貯木場の埋立てで発生する土地を単に活用可能な土地として考えるのではなく、また、木材をただデザインモチーフとして使うのではなく、歴史を踏まえた上で新たな価値を創造し、現在集積している木材関係の既存企業にもその価値を還元できるコンセプトとして評価できる。
- ・林業や木材の多面的な価値（環境問題、防災、エネルギー、SDGs など）に着目している点も今の時流に合致している。また、このグループの提案では、岸和田市や忠岡町が立地する泉州地域や近接する南河内地域は広い山林を擁しているといった周辺環境との関係性も視野に入れた提案となっている。
- ・提案内容も、土地利用や交通計画はきめ細かであり、新たな木材工場や道の駅のビジョンが具体的でイメージを共有しやすいものとなっている。特に、埋立てが実現するまでの暫定的な水面利用など、段階的な開発が提案されており、木材コンビナート協会の内藤氏のアドバイスの一つであった「タイミング」が考慮されていた点も高評価である。



最後に記念撮影しました。（撮影時のみ、マスクを外しています）